

◇◆工芸美術◆◇

素材と表現について

～小学校高学年以上用テキスト～

※工芸美術には様々な表現がありますが、素材と技法で下のようにはげられます。
作品を見るときに参考にしてください。

●金工（きんこう）

金属は、熱すると溶け、冷えると柔らかくなり、それを叩くとまた硬くなる性質を持っています。種類は、鉄・非鉄金属（銅、アルミニウムほか）・貴金属（金、銅ほか）などに分かります。

彫金（ちょうきん）は、金属の表面を彫ったり、糸ノコで透かしたり、ほかの金属をはめたり、打ちだしたりして作ります。

鍛金（たんきん）は、金属を金槌や木槌で打ったり、絞ったり、延ばしたり、曲げたり、また接合して作ります。

鑄金（ちゅうきん）は、金属を熱で溶かして、型に流し込んで作る方法です。木・粘土・石膏・ろうなどで形を作り鑄型（いがた）を作ります。

●漆（うるし）

漆は、木の樹液です。木、竹、麻布などの上に何回も漆を塗ります。その上に漆を使い金粉で絵を描く**蒔絵（まきえ）**、彫った中に金を埋める**沈金（ちんきん）**、磨いた貝をはる**螺鈿（らでん）**などがあります。

●陶磁（とうじ）

粘土を窯で焼き上げて作ります。

陶器は、粘土で形を作り、乾燥させてから窯で一度焼き、その上に模様を描き、また焼いてあげます。

磁器は、陶石を砕き、水を加えて粘土にして形を作り、窯で焼きます。陶器より固く、高い音がします。染め付け、青磁、白磁などがあります。

●染織（せんしょく）

染色は、布にのり・ロウ・樹脂などで絵を描き、その部分に染料が染み込まないようにして染めて作ります。手描き染・型染めや絞り染などの方法があります。色彩は、絵画と違う透明感があります。

織は、タテ糸とヨコ糸を組み合わせて布を作る方法です。絹・木綿・麻・毛糸・化繊などの糸を染めて使います。

刺繍は、染めた糸を布地に丹念に刺したり、縫ったりして作ります。

●革（かわ）

革は、編んだり、打ったり、彫ったりして作ります。牛・豚・馬・鹿・サメなど、なめした皮を使います。

●ガラス

ガラスは、珪石、ソーダ灰などの原料を溶かしてアメ状の軟らかいうちに形にし、時間をかけて冷まして作ります。宙吹き、型吹き、流し込みなどがあります。

●七宝（しっぽう）

七宝は、金属の上にガラスの粉で絵を描き、窯で焼いて作ります。

ガラスの粉は、七宝絵具とも呼ばれ、透明、半透明、不透明などがあります。

●人形（にんぎょう）

人形は、土・木・紙・桐塑・布などで形を作ります。

貝の粉を塗る、陶器の素焼に彩色する、木彫の人形に布地をはりこむなど、多くの方法があります。

●木工（もっこう）

木工は、ヒノキ、ケヤキ、カツラ、チークなどの木材を生かして作ります。材質の感じを残して染料や漆で色をつけます。

●竹（たけ）

竹の性質を利用して薄く細く割って使い、それを編む、組む、束ねるなどして作ります。
染料や漆などで色をつけます。

●紙（かみ）

紙は、コウゾ・ミツマタなどの木を砕いた繊維を使い、すいて作ります。

●その他

材料に籐・石・珊瑚・アクリルなどと、いくつかの材料を組み合わせた作品もあります。
また方法には截金・アップリケなどがあります。